



TITLE:

昭和7年の邦文天文書一覽

AUTHOR(S):

水野, 千里

---

CITATION:

水野, 千里. 昭和7年の邦文天文書一覽. 天界 1933, 13(145): 178-180

ISSUE DATE:

1933-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162350>

RIGHT:

## 昭和7年中の邦文天文書一覽

## 水 野 千 里

順番	書 名	著 譯 者	冊數	定價	發 行 所
1.	輓近自然地理學	青 山 信 雄	上卷	¥5.50	古 今 書 院
2.	天 文 學	鈴 木 敬 信	1	7.80	岩 波 書 店
3.	登山者の天文學	山 本 一 清	1	1.60	恒 星 社
4.	萬 有 科 學大系	松 山 基 範	正篇第二	2.50	新 光 社
5.	地 球 物 理 學	中村左衛門太郎	1	1.80	恒 星 社
6.	地 球 進 化年表	子供の科學編輯局	1	0.20	誠 文 堂
7.	日 月 蝕 及掩蔽	福 本 正 人	1	2.20	恒 星 社
8.	星 座 行 脚	科 學 畫 報	附錄本文共	0.80	新 光 社
9.	新物理學の宇宙像	山 村 清	1	1.80	恒 星 社
10.	宇 宙 論	大 島 豐	1	2.00	第 一 房 書
11.	御 空 の 輝 き	小 松 昌 之	1	1.30	高 美 書 店
12.	天體と日本文學	堀 尾 實 善	1	1.50	立命館出版部
13.	天體の不可思議	木 村 諭 吉	1	0.50	木 村 書 房
14.	獅子座の流星群	片 山 敏 彦	1	0.20	岩 波 書 店
15.	希臘神話及北歐神話	杉谷代水中島孤島	1	1.80	富 山 房
16.	年代對照便覽並陰陽曆對照表	神田茂	1	1.80	古 今 書 院
17.	天 體 寫 真 術	中 村 要	1	2.80	恒 星 社
18.	國 友 藤 兵衛傳	有 馬 成 甫	1	3.50	武 藏 野 書院
19.	星座早見 普及版	日 本 天 文 學 會	1	0.80	三 省 堂
20.	天文年鑑(1933年)	東 亞 天 文 協 會	1	1.20	恒 星 社
21.	理科年表(昭和八年)	東 京 天 文 臺	1	1.50	丸善株式會社
22.	日本天文學會夏報	日 本 天 文 學 會	第4	1.00	日本天文學會
23.	〃	〃	第5	1.25	〃
24.	岩波西洋人名辭典	龜 井 高 孝 上 豐 一 石 原 純	1	6.50	岩 波 書 店
25.	運 氣 術 天文圖解	井 口 常 範	5 古本	1.00	藤屋 徳兵衛

以上二十五種のものが手に入つた。中には昭和六年以前の出版に係るものがあるが、大體に於て昭和七年中に出版されたものである。

1 第一篇天文地理學に300頁が費され、第一章星界(銀河系及び外銀河系)

第二章太陽系，第三章天體としての地球，第四章時季節及び曆，第五章蝕の現象，第六章太陽系の起原，第七章地磁氣，第八章地質的に見たる地球，第九章地圖投影法及び地形圖に分けて詳述してある。これだけ讀めば天文の大要を知ることを得られる。

2 本文968頁の尠大なるもの、本章の内容はヤング教授の「天文學便覽」より大きく、之と「一般天文學」との間に位するものである。ラツセル、デュガン、スチュアート三氏の合著で、「太陽系」と「天體物理學及び恒星天文學」に二大別し、更に緒論と二十六章に細別し、附録、事項索引、人名索引もあり、天文學上の計算問題が諸所にあるので、之を試みるのがよい。この書を熟讀玩味せば、一角のアマチュア天文學者となれるであらう。

3 第一部趣味としての天空觀察，第二部實用の天文知識，正しい方角を見る法，A，太陽に依る方法，B，北極星による方法，時刻を知る方法，A，太陽に依る方法，B，恒星による方法，第三部簡単な研究觀測に分けて書いてある。著者の言によると、『近來，毎年夏の頃，盛んに各地で行はれる登山は，登山それ自身に，大切な種々の目的や，興味があるわけであらうが，尙ほ其の機會に見得る天體の景色に親しむと云ふ事は，登山者の爲めには大いなる收穫の一つであらうし，更に登山趣味を深める事にもなるであらうと考へる。それで，こゝに専ら登山者の爲めの簡易な天文の手引きを書いてみる。』とのことで圖表が二十一，挿圖が五十圖あつて，普通の天文書に見當らないことが，諸所に解説されて居る。

4 地球は松山基範博士，地球の歴史は早坂一郎博士，人間は石川千代松博士の手になつたもので，参考とすべき箇所が多い，

5 寺田博士の地球物理學が絶版になつて，松澤理學博士の地球物理學が出版され，三度び同名の地球物理學が，今度は中村博士によつて著はされた。

6 四十億年前の天文時代から現在までを二十八に分ち，簡単な説明が加へてある。

7 本書は第一章日蝕編，第二章月蝕編，第三章遊星の太陽面通過，第四章掩蔽編，第五章掩蔽を算出する描畫法，附録天文常數表からなつて居て，五

百部出版されたもので、天文専門家の参考書である。

8 科學畫報昭和七年九月特輯號は大宇宙解剖號で、その附録が本書で、初めて星を見る人の手引として著はされ、緒言、毎月の星空、太陽系の軌道と其運行に分けて解説してある。

9 本書は J. H. ジーンスの著を譯述されたものである。

10 著者が今後三十年の計畫で發表されんとする、綜合哲理第十卷の第一卷となるもので、第一章宇宙の構成、第二章物質界の本質の二章は天文として一讀の價值がある。

11 會員小松昌之氏の力作、少年少女の好讀物である。

12 天體美觀の姉妹篇、第一太陽景觀、第二星と宇宙とその美、第三月とその美觀、第四我國中古以後の文學上の日月星辰の美、第五結論である。

13 64頁美しい天體寫眞でうづめられ、それに簡単な解説がある。

14 名は天文書であるが、實は戯曲である。

15 天體に關する神話が澤山あるので一讀を獎める。

16 神田理學士の力著、年代を探るに頗る便利である。

17 中村要氏の遺稿、第一章天體寫眞術、第二章天體寫眞用レンズ、第三章赤道儀、第四章天體寫眞撮影の諸裝置、第五章各天體の撮影法、第六章乾板の處理法、第七章原板の處理法、第八章位置の測定法、他に類の少い好著。天文の趣味の八割は天體寫眞にありとか、寫眞の心得ある人々の必讀を獎む。

18 有馬海軍大佐の著、國友一貫齋の傳記で、其の晩年の天體望遠鏡の製作、天體觀測、饑饉救済と望遠鏡、望遠鏡の取扱法の諸項特に一讀されたい。

19 明治四十年の初版で、私が星座を覺えたもの、新版を手にして、感慨無量である。

20 天文に關する唯一の年鑑、天文ファンの必讀書である。

21 20と同様座右に備ふべき書である。

22 23 天文専門家必讀書である。

24 天文學者、神話に出る天文に關する人々、物理學者、數學者等、天文家に必要な人々の略傳がある。

25 元祿年間の著書、當時の天文を知る参考書とすべきである。